

氏名	北島義典	部署	健康開発学科	職名	教授
研究分野	運動疫学 公衆衛生学 疫学 健康教育				
学位	修士（体育）				
学歴	1987年 中京大学体育学部体育学科、1991年 中京大学大学院体育学研究科修士課程、1993年 中京大学大学院体育学研究科博士課程（中途退学）				
経歴	1994年財)明治安田厚生事業団 体力医学研究所研究員、2005年同研究所副主任研究員、2011年同財団新宿健診センター学術室 室長(兼務)、2012年公立大学法人 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 健康開発学科 健康行動科学専攻 准教授、同大学院 保健医療福祉学研究科 博士前期課程 健康福祉科学専修 准教授、2014年 同大学院保健医療福祉学研究科 博士後期課程 准教授、2020年同大学保健医療福祉学部 健康開発学科 健康行動科学専攻 教授、同大学院 保健医療福祉学研究科 博士前期課程 健康福祉科学専修 教授、同大学院 保健医療福祉学研究科 博士後期課程教授				
所属学会（役職）	日本運動疫学会（監事）、日本健康教育学会（常任理事）、日本体力医学会（評議員）、American college of sports medicine、日本公衆衛生学会、日本疫学会、日本体育学会、日本運動生理学会、日本栄養改善学会、日本健康学会、日本学校保健学会、日本ストレス学会、日本母性衛生学会、日本思春期学会				

【2023年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	乳児を持つ母親の育児リカバリー経験尺度開発に関する予備的調査	共著	あり		日本保健福祉学会誌, 30(1), 9-19.	伊草綾香, 関美雪, <u>北島義典</u> , 延原弘章	2023.09
2	地域在住高齢者における腰痛と身体活動, 座位時間との関連 横断研究	共著	あり		日本公衆衛生雑誌, 70(10), 690-698.	中村睦美, 佐藤慎一郎, 根本裕太, 山田卓也, 武田典子, 丸尾和司, 福田吉治, <u>北島義典</u> , 荒尾孝.	2023.10
3	ロコモティブシンドロームとプレゼンティーズムとの関連 病院職員を対象とした横断研究	共著	あり		理学療法学, 50(6), 239-245.	岸本俊樹, <u>北島義典</u> , 石橋英明	2023.12
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	地域在住高齢者における身体活動と認知症発症との関連：多時点観察データを用いた検討	共同	日本公衆衛生学会総会, つくばし市		○根本裕太, 佐藤慎一郎, 武田典子, 山田卓也, 笠井貴志, <u>北島義典</u> , 荒尾孝		2023年7月
2	ご当地体操実施者の実態および特性：地域在住高齢者を対象とした全数調査による検討	共同	日本公衆衛生学会総会, つくばし市		○天野奥津江, 笠井貴志, 根本裕太, 武田典子, <u>北島義典</u> , 荒尾孝		2023年10月
3	通いの場参加によるフレイル予防効果：6年間の反復測定データを用いた検討	共同	日本公衆衛生学会総会, つくばし市		○笠井貴志, 天野奥津江, 根本裕太, 佐藤慎一郎, 武田典子, <u>北島義典</u> , 荒尾孝		2023年10月
4	労働者における疼痛の認知要因および心理的ストレスとプレゼンティーズムとの関連	共同	日本公衆衛生学会総会, つくばし市		○岸本俊樹, <u>北島義典</u> , 関美雪, 延原弘章		2023年10月
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	該当なし						

2. 競争的資金等の研究				
	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省 基盤研究(B)	心身機能低下者の通いの場参加を 促し元気高齢者との格差を縮小す る包括的支援策の構築	研究分担者	2022.4 - 2025.3
2	埼玉県立大学 奨励研究	地域高齢者のクロノタイプを考慮 した不眠改善運動プログラム構築 のための研究	研究代表者	2023.4 - 2024.3
3	埼玉県立大学 プロジェクト研究	越谷市のデータベースを活用した 介護予防事業の推進-ビッグデータ 解析を用いた通いの場の効果検証-	研究代表者	2022.4-2024.3
4	埼玉県立大学 教育・研究・地域連携の 一体的推進事業	健康なまちづくりー地域住民の企 画運営と大学（学生を含む）のサ ポートのあり 方ー	研究代表者	2023.4-2024.3
3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	学部：健康科学1（健康教養）	○	15	健康科学や健康文化論を学ぶ際に必要な、基本的な知識の習得を目的 とした（科目を健康教養として位置付ける）。以下3点を中心に、健康 に関する専門的な知識の習得を目指した。 1. 健康の定義を理解し、健康観について考察を深める。 2. 疾病予防の知識を養う。 3. 正しい健康情報の取得と伝え方を学ぶ。 特に2020年度はコロナウィルスの感染拡大の話題を盛り込んで予防行 動の変容の困難さや介入方法の工夫について学べるように説明をし た。
2	学部：健康科学2（健康運動論）	○	15	身体的、精神的および社会的健康に対する身体活動の効用についての 理解を深めることを目的とした。そのために以下の3点を重視して授業 を展開した。1. 身体活動の定義を理解し、身体活動が健康づくりのた めの手段のひとつであることを理解する。2. 非感染性疾患予防のため の身体活動の効用を科学的根拠に基づいて理解する。3. ライスステー ジ別の身体活動ガイドラインを理解する。特に2020年度はコロナウィ ルスの感染拡大の話題を盛り込んで不活動の健康に対する影響について 授業を進めた。特に運動疫学会から発信される情報をもとに最新の情 報を伝えた。
3	学部：卒業研究		30	例年、各学生が仮説を立て、それを実証するためにデータを収集し、そ のデータを解析した結果をもとに考察を深めることを実施してきた。し かし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のためデータ収集が困難の ため、既存データをを用いて解析を実施して各学生のテーマについて理 解を深めた。
4	学部：運動疫学	○	15	運動（身体活動）の疾患予防や健康づくりに対する有効性について疫学 研究から学ぶ。授業を通じて質の高いエビデンスを選択する能力を高 め、質の高いエビデンスを人に伝える方法を習得する。そのために、一 定のキーワードを学生に伝え、文献検索を実施させ、選択能力を確認 させた。また、学生には選んだ文献を熟読させて、それを発表させ て、学生全員で吟味した。
5	学部：健康行動科学入門1		1	私のこれまでの研究を紹介し、研究の面白さを伝えて、エビデンスづく りについて理解を深めた。

6	学部：健康行動科学入門2		1	身体活動の健康に対する効用に関するエビデンスを用いた政策づくりに ついて、国の指針やこれまでの私の研究を用いて説明をし理解を深め た。
7	大学院：健康長寿論（博士後期課 程）	○	15	高齢化の進むわが国においては、生活習慣病や精神疾患等の非感染 症、介護が重要な問題となっているが、これらはいずれも予防が重要で ある。本講義では、健康長寿の実現に向けて、これらの疾患の危険因 子の探索方法や予防プログラムの開発・評価方法について解説し、主と して疫学的な観点から、長寿社会における健康に資する研究の立案を行 える能力の獲得を目指した。工夫としてはこれまでの私自身の研究を基 本に現行の介護予防や包括支援システムについて理解を深めた。
8	大学院：健康科学実証研究法特論		10	健康の維持増進および疾病予防は、個人の健康行動と行政等による集 団に対する保健医療施策に影響されるが、健康科学におけるすべての研 究成果は、最終的にはヒトにおいて、統計的な手法に依拠して実証的に 検討されなければならない。そこで本講義においては、健康科学にお ける実証研究を行う上で必要となるデータ収集や研究デザインに関わる 疫学、社会調査の方法論について解説するとともに、研究の中での使用 例を解説する。また、ヒトを対象とした研究であるがゆえに避ける ことのできないバイアスの制御方法について、多変量解析を含めて解 説するとともに、統計解析ソフトを用いた、実践的な演習も実施する。
9	大学院：加齢神経運動機能論（博 士後期課程）		3	加齢や不活動による神経・運動機能低下の予防について運動生理学、 スポーツ科学などの新たな知見と研究手法を用いて説明した。また、 以前に我々が開発した高齢者用の身体機能テスト（生活体力測定）を 用いた研究を紹介して地域で実施されている介護予防について理解深め た。
（2）演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	学部：健康運動論演習	○	15	健康を評価する主観的、及び客観的指標の特徴を学習し、調査・測定 方法の注意点やデータ解析の方法を学ぶ。そのために、実際に履修生 を対象に主観的、及び客観的指標を用いて、データを収集し、解析し て、結果について先行研究を参考に解釈を深めレポートにまとめさせ た。
2	学部：課題別演習Ⅰ・Ⅱ		30	卒業研究に関する研究計画書の作成方法（研究倫理、エビデンスレベ ル、統計解析、論文の書き方）
3	大学院 健康長寿演習（博士後期 課程）	○	15	地域での健康づくりに関する、介入方法（プログラム開発）、評価方 法、住民と行政との協働の作り方を実例をあげて解説。
（3）実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ヒューマンケア体験実習		15	「ヒューマンケア論」で学んだことを、保健・医療・福祉の実践現場 にて実際に体験し、援助を必要とする人々・保健医療福祉に携わる 人々・グループメンバーなどと直接的に関わることによって、①自己の 人との関わり方を客観視する姿勢、②グループメンバーと協力し合う姿 勢、③援助を必要とする人々のニーズや保健医療福祉に携わる人々の 役割へ関心を向ける姿勢、④多様な人間観・価値観を理解しようとし る姿勢を養う。①～④が現場のどの場面で大切かがわかるように解説 を加える。
（4）論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2023.4-2024.3	主指導 5名	副指導 0名

2	修士論文	2023.4-2024.3	主指導（指導教員）	0名	副指導（指導補助教員）	2名
3	博士論文	2023.4-2024.3	主指導（指導教員）	0名	副指導（指導補助教員）	7名
(5) その他						
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	人事委員会 委員	2023. 12	人事採用審査			
4. 社会貢献活動						
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師						
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ			開催年月
1	埼玉未来大学 講義	埼玉未来大学 （春日部学園）	健康長寿プログラムのエビデンスと習慣化に向けて			2023年5月
2	健康運動指導士会養成講座	公財）健康・体 力づくり事業財 団	体力測定と評価 介護予防に関連する体力測定法とその評 価			2023年6月,11月
3	越谷市 市民健康教室	越谷市保健セン ター	「運動の講話と実習」いつでもどこでも+10 ～こまめに身体を動かそう～			2023年7月
4	埼玉県県民活動総合センター	公益財産 いきいき埼玉	快眠で作る心と体の健康☑ －睡眠を見直そう－			2023年10月
5	越谷市チームー3キロ	越谷市保健センター	テーマ：減量に効果的な運動は？			2023年11月
6	越谷市大袋公民館 健康講演会	越谷市大袋公民館	テーマ：質のよい睡眠でより健康的な身体へ☑			2024年2月
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等						
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称			任期
1	春日部市健康づくり推進審議会		委員および会長（議長）			2020年4月～現在 に至る
2	春日部市高齢者保健福祉計画等推進審議会		委員および会長（議長）			2020年4月～現在 に至る
3	越谷市生涯学習審議会 副会長		委員および副会長			2021年4月～現在 に至る
4	戸田市保健対策推進協議会		会長			2021年4月～現在 に至る
5	武里団地ささえあいの会		委員			2018年4月～現在 に至る
6	都留市セーフコミュニティ		外傷サーベイランス委員会委員			2019年11月～現 在に至る
7	桶川市健康増進課		第二次桶川市健康づくり推進計画及び第二次桶川市 食育推進計画策定委員 副会長			2023年8月～2024 年3月
8	都留市長寿介護課（都留市と県立大学との共同研究協定）		都留市研究（地域高齢者の集団的健康づくりの開発 とその評価）			2016年1月～現在 に至る
(3) ジャーナリズムでの発言						
	メディア等の名称		内容			年月
1	該当なし					
(4) その他						
	項目	相手方等	内容			期間
1	地域貢献活動	日本健康教育学会編集委員 会	日本健康教育学会誌の査読			2023年9月
2	地域貢献活動	東洋大学健康スポーツ科学 部紀要編集委員会	健康スポーツ科学研究の査読			2023年10月

5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	地域産学連携センター副所長	2021年4月～現在 に至る
2	全学的委員会及びセンター業務等	大学院教務委員会 委員	2021年4月～現在 に至る
3	学生支援	D's bar 顧問	2012年10月～現在 に至る
4	大学広報活動	オープンキャンパス 授業紹介	2013年4月～現在 に至る
5	全学的委員会及びセンター業務等	大学院改革プロジェクト	2022年8月～現在 に至る
6	全学的委員会及びセンター業務等	センターあり方プロジェクト	2023 年11月～現在 に至る
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		